

---

◎議案第59号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第3、議案第59号 平成28年度松崎町立幼稚園建設工事請負契約についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第59号は、平成28年度松崎町立幼稚園建設工事請負契約についてであります。

詳細は担当課長をして説明します。

（教育委員会事務局長 石田正志君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○1番（伴 高志君） まず、基本的な確認をしたいんですけども、この予算というのは、全額過疎債から負担されるということで間違いないですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 予算の財源につきましては、6月議会の補正で財源の組み替えをしていると思います。2億9500万円の・・・、予算ベースですけども、事業費に対して2億8000万円の過疎債を借りるということで、財政の方から説明があったと思います。

○1番（伴 高志君） 基本的なことで申し訳ないんですけども、過疎債というのは返済の見込みを見込んで行うものだと思うんですけど、これに関しては何年で返済していくとか、そういうことはどうなっているのでしょうか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 本来、財政の係がいれば詳しく申し上げるところですが、一応私の知っている限りでは償還は12年間です。元利償還ですね。元利償還の内70パーセントが地方交付税に算入されて戻ってくるというような制度になっております。

○1番（伴 高志君） それでは、地方交付税ということは、一般財源からは負担がないということになりますか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） あくまでも借入金の7割ですから、3割は一般財源の方から負担、町の負担ということになります。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○2番（渡辺文彦君） 今回、なまこ壁の工事が別枠で設定されているわけですけども、言われている趣旨はよくわかるんですけども、その当初の予算が2億9500万円の予算、今回の入札が2億

4000万円ということで、だいぶ予備的な幅はあるわけですがけれども、なまこ壁の工事自体はだいたいどれくらいの予算を見積もっているのか、とりあえず。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 先ほど言いましたように、地元の業者の方を考えておりますので、参考見積りを取って、あくまでもこの予算の範囲内で、当然のことながら執行する予定であります。

ただ、当初なまこ壁を入れた設計額がありますけれど、地元で直接頼んで施工した方がいくらか安くなるような感覚をもっています。

○2番（渡辺文彦君） 教育委員会事務局長が言われたように、地元の業者にやってもらうということは、地元の産業を守っていくという意味で大切なことだと私も十分理解できるわけですが、最初全員協議会で出された案では、工事請負費の中で2億9500万円に全て工事内容が一括で整理されて出されているわけで、今回初めてこのなまこ壁の部分が追加で出るという表現されているわけですね。

これは本来ならば、最初の設計の段階でもなまこ壁でやりたいということでは言われていたわけですから、当然その工事費は見積もられていたと思うんですが、今回の入札に関しては、その分の減額は考慮されているということですかね。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 当初なまこ壁を入れた設計額から当然そのなまこ壁相当分は減額された設計額になっています。

○2番（渡辺文彦君） ちょっとそのなまこ壁の件に関しては、想定でどのくらいになるかちょっとまだわからないところでしょうけれども、とりあえず2億9500万円の予算の中で、今回2億4000万円ですが、このあといろんな工事がまだ追加が出てくると思うんですが、あと、この後出てくるような工事は何か考えられるところはありますか。

総体的にこの予算内で納めてもらえば結構なんですけれども、これがまた多くなるようなことになるとちょっとやっぱり問題かなと・・・、これを予定していなかったから、またこれもということが必要なんじゃないんですけれども、その辺をちょっと確認したいんですけれども。

○教育委員会事務局長（石田正志君） なまこ壁については、2億9500万円の範囲内に当然入っています。その他の変更というのは、ないとは言い切れないわけですが、大きな変更はないと思うんですが、当然のことながら、今後監理をしている業者それから施工を請け負った業者については、この予算は絶対オーバーしないように我われも調整するというのは、最初に言っておきたいなと思います。

○3番（長嶋精一君） 私の方からは、この金額自体がどう考えてもわが町の規模、財政規模、それ

と幼稚園児のこれからの数の予測も含めて、そういったことから勘案すると、非常に過大な投資ではないかと私は思っております。それについて、まず、いかがかということをして1つ。

それから、特徴としては木造の平屋ですね。それで集成材を使うというふうになっています。近隣の町では、河津町が図書館ですか、集成材を使った建物を造っているということですが、この集成材にする意味はなんなのか、そして集成材の仕入れはどこから仕入れるのか、それが2つ目であります。

最初ちょっと規模が大きいと言ったのは、木造に対して、要するに公的な場合の基準というのがあると思うんですよ。それはわかります。若干説明を聞いています。

基準というのは、おそらく上限ではないかなと私は思っているんですよ。だから、その業者との交渉によって、それを低くやるということは可能ではないかなという意味も含めて、高すぎるのではないかとということです。

それと、現在の木造は坪単価で60万円位ですね。ところが、これを単純に坪数と金額で割っていくとだいたい140万円位の坪単価になるんじゃないかと私は思っています。高すぎるのではないかな。

それと、3つ目は、当初は分離発注ということをしていたはずなんだけれども、一括になった。どうして最初は分離発注にしようかというふうに考えたのか。それが何で一括になったのかということの説明をしていただきたいと思います。

それと、4つ目は・・・、いいですか4つ目・・・。

○議長（稲葉昭宏君） いいです。

○3番（長嶋精一君） 全員協議会の時に、2月15日、その時に、幼稚園の建設について予算が出ているわけですが、松崎幼稚園建設工事備品購入として3億2270万円、その内訳として、幼稚園の建設が2億9500万円、備品が2000万円と提示をしております。備品の2000万円というのは、2000万円という客観的にみて家が一軒、かなりいい家が建つくらいの金額なんですよ。どういうふうなものを仕入れるというか、発注するのか。おそらく備品だから、机だとか、いろんなそういうものだと思うんだけど、そこら辺の明細を教えてください。どこから仕入れるのか。でき得れば、さっきから説明があるように、地元の業者を優先して、そんな金額に大きな隔たりがない限り地元の業者を公平に扱うということが一番いいのではないかなと思いますけれども、どこから仕入れるのか、あるいは地元の業者はどういうふうな形で・・・、要するに入札形式にするのか、そこら辺も含めてお願いしたいと思います。

同時になまこ壁の別途工事についてもどういうふうに、どういう業者に委託するのかということ

も、想定しているのであれば、ここで教えていただきたい。以上です。

ここで発表できないものであったら、後で教えていただいても結構です。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 集成材を使った理由ということですが、まず、集成材は大変強度が強いということがございます。また、幼稚園とかあいう大きな建物は、教室とか遊戯室とか、広い空間をつくらなければならないから当然定尺、一般の定尺材というものでは対応しきれないということがございます。強度を確保するということと、それから一般の定尺材では、住宅みたいな4メートルとか決まった寸法ではできないということから選ばせていただきまして、集成材自体は当然特注になるわけです。その建物の寸法に合わせなければならないから、高いとか広いとか、スパンが当然量も多くなるということで、その辺で量的には増えているというような状況でございます。

仕入先につきましては、請け負った業者が、設計書に材料とかの指示をしてありますから一応国産材を予定しています。仕入先は、こちらがどうこうということは言えないものですから、請け負った業者がどこから取るかはちょっとわからない状況でございます。

それから、価格について低くすべきか、材料等の関係だと思うんですけど、設計するにあたっては、当然建築基準法等のいろいろな法令に従うことはもちろんのことですけれど、以前ちょっとお話したと思いますけれども、文科省から幼稚園の施設整備指針というのが出ていまして、いろいろその中でこういった・・・、これは方針ですけれども考慮すべき事項がいろいろ出ています。

より良い環境の施設を造りなさいということだと思うんですけども、そういったものにできるだけ沿ったものということで、当然設計の段階でこちらとしては指示しているわけです。その中で選んできた材料ということで、その中でもできるだけ安いもの、当然いくつかあるわけですが、できるだけ安くてメンテナンスとかが必要ないものとか、そういったものを考慮しながら選んだ結果でございます。

それから坪単価の関係ですけれど、60万円というのは一般住宅だと思うんですけども、それとは当然施設が違いますので、いろいろな設備が当然一般住宅よりも多くなっていますから、そういうのを含めて当然高くなるわけですが、140万円というのは、いま言ったような材料等を吟味した結果ということで、このような結果になったものでございます。

それから、分離発注から一括・・・、当初分離発注ということは皆様もいろいろ要請しました地元業者の方へできるだけ潤うような方策を考えたらどうかということで考えて、いろいろ一つは分離で地元業者に参加していただこうかと思いましたが、これにつきましては、正直言って入札参加に出ている業者が各工種ごと、建築は正直言って、なかなか難しいと、電気、水道につきましても

1 社しか確か町内ではないということでございます。

その中で、それぞれ競争させるのはどうかということでありまして、それからもう一つは、いろいろな工種がありまして、工程の中で建築があつて、電気とそれぞれの工種を調整する必要があるわけです。そうなりますと、一元管理ができるということで、工事の工程管理がしやすいメリットがあるということで、一括発注にさせていただいたものでございます。

それから備品の関係ですが、備品の2000万円につきましては、2000万円はそれぞれ遊具と家具関係が1000万円と1000万円で予算は振り分けてあります。仕入先はどこかということでございますけれど、できるだけ町内業者が直接扱えるものでしたら、そちらを考えますし、当然ながら、できないということであれば外部から業者を選定し、備品ですので若干遅くなってもいいものですから、これから調整していきたいと考えております。

それから、なまこ壁の業者ですけれども、これは先ほど言いましたように、当然町内の左官屋さんということになりまして、そこの方から見積り等は徴集して仕事をしていただければと担当課としては思っております。以上でございます。

○町長（齋藤文彦君） 分離発注の件ですけれども、私はやっぱりこれだけの建物を建てるわけですから、地元の業者にやっぱり本当にお金が回るような形になればいいなと思って、最初は分離発注がいいのではないかと考えてわけですけれども、指名できる業者が本当に絶対的に少ないため、効果は非常に薄いと判断して、一括発注で落札した業者に地元業者の活用をお願いしていくということになりました。

そして、この町の予算に対して、ちょっと予算が大きいんじゃないかというようなことがありますけれども、私はせっかく幼稚園を・・・、4園が2園になり、2園を1園にする。本当にこの松崎町の最後の幼稚園になるような感じでやっていますので、珪藻土を使ってもらいたいと、そして、木をできるだけ使ってもらいたい。それで、なまこ壁でぜひ造りたいというようなことがありまして、若干高くなっているのかなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○6番（福本栄一郎君） 今年の予算で幼稚園建設工事監理業務委託770万円がありますけれども、これはもう発注したでしょうか。

それと、先ほどなまこ壁の関係で、地元の左官屋さんの仕事あるいはなまこ壁の技術の伝承ということを担当課長はおっしゃっていますけれども、それはそれでいいと思うんです。具体的に金額がいくらになるんですか。見積りを取りました。じゃあ、予算額がありません。当然出ているわけです、これは。本来は合算で発注するところが、そういった考えが出て、分離発注・・・、なまこ壁

は松崎町のシンボルですから、その考え方はいいと思うんです。

ですけれども金額がね。要するに、私が言うのは、予算上では税込で2億9500万円、今回の工事請負費が2億5920万円、税込み、仮契約ですね。差額は3580万円です。これは逆を言うと、なまこ壁はこんかいかかりました。さらには・・・、おそらく追加工事が出ると思うんです。あれは足りません、これも足りません。その意味合いですよ。

今までだって、西区の避難タワーも30万円の・・・出ました。ここの発災用の非常用発電機、これも出ました。予算残があるから、じゃあ、みんな使ってしまうという安易な考えを出されちゃ困るということです。だったら、高いお金をかけて、プロである設計士を一級建築事務所に基本設計、実施設計・・・やっていて、その意味合いを・・・、どういうことかということです。

ですから、このなまこ壁の金額はもう当然出ているわけです。出ていなければ、この当初予算で2億9500万円の金が出ないじゃないですか。それはちゃんと教えてくれませんか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） なまこ壁につきましては、総額の中に入っていて、これは基本設計の段階で800万円位を基本設計でみています。

ただ、当然先ほど言いましたように、町内業者から見積りを取ると、おそらくこれよりも安くなるだろうという考えでおります。

○6番（福本栄一郎君） わかりました。幼稚園の園舎の監理業務、これも発注してあるんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） すみません。入札は済みまして同じ日に入札を済ませています。基本と実施を請け負ったコンサル、蒼設計というところが落札しました。

○6番（福本栄一郎君） 同じ業者ということですね。わかりました。

それで、あまりにも・・・、私が言いたいのは、追加工事ということです。この辺で・・・、前に町長にも言いましたが、松崎町には金のなる木があるんですかと言ったら、町長はありませんと・・・、どこでストップをかけるか、そのために詳細が・・・、莫大なお金をかけて基本設計、実施設計を組んで発注に至ったわけですから、業者がちよっと落ちていました。それはプロとして許されないと思うんです。これが落ちていました。だから追加してください。じゃあ、安易に認める。こういった態度だったら、お金がいくらあっても足りないです。

そこで、決意として最大限この2億5000万円で納めるという考え方はあるんですか。まさか足りなくなりましたから、落ちていましたから、また補正でお願いしますということは、よほど突発的なことがない限り我われ議会としても、松崎町を代表している・・・、財政が乏しい中でやっているのに、あれも落ちていました、これも落ちていました。そういった場合には、業者の責任の関係と、もうこれが最高限度で追加工事は・・・、金額は認めませんという、その決意を語ってください。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 当然変更を認めないというのは何とも言えないわけですがけれども、予算 2 億 9500 万円、認められた予算の範囲内、当然これはオーバーしないように、それは監理と調整をするというのは私らも強く思っております。

○6 番（福本栄一郎君） ですから、これは本当に担当課長も大変でしょうけれども、業者が言ってきました。これが落ちていましたから、局長さん、教育委員会さん、お願いしますということは許されないと思います。彼らはプロなんです。基本設計、実施設計に莫大なお金をかけている。よもやこの工事が落ちていました。そういったことが・・・、人間ですから、なきにはないけれども、それを認めていたら、予算が余ったから、全部よこしなさいという、そういったことで・・・、ぜひとも波打ち際で防いでもらいたい。それだけです。

○議長（稲葉昭宏君） 福本君、答弁は町長ですか。

○6 番（福本栄一郎君） はい。

○町長（齋藤文彦君） 議会の皆さんには、本当にいろいろ言われるわけですがけれども、言われないうちにちゃんと監督したいと思っています。

○3 番（長嶋精一君） 業者等はいま仕事がない時代で、町の業者を極力使うと、使ってもらった方がいいということは非常に一般受けをする言葉なんですよ。特に建築業者について、わが町の歴史をたどると、多くの町の仕事をやっている業者が倒産をしたり、あるいはいろんなことがあったわけですね。

だから、ほとんどもう少なくなっているわけです、現状として。町の業者を使うと言いながら、そういう現状が過去にあったということは、いったいどういうことかと私は非常に疑問を感じるところがあるわけです。だから、もちろん自助努力というものが必要なんですけれども、あまりにも・・・、地元、地元ということは・・・、当然そうなんだけれども、やっぱり自助努力もしなければいけないということもあると思います。

価格を極力自分のところで努力して下げていくということですね。そういうことをやっていかない限りは・・・、松崎では通用するかもしれないですがけれども、ほかのところでは通用しないということになるわけですよ。そこら辺はしっかりと・・・、町長が、思い入れが強いみたいですがけれども、どうも高すぎるなという感じはぬぐい去ることはできません。

そして、もう 1 点は、備品についての 2000 万円の計上ですがけれども、どういうところに発注したんだということを・・・、これは終了したら公開をしてもらいたいと思います。以上です。

○議長（稲葉昭宏君） 答弁はいいですか。

（長嶋議員「局長をお願いします」と呼ぶ）

○教育委員会事務局長（石田正志君） 備品の関係でよろしいですか。

備品については、当然700万円以上の予定価格については、また議会の議決を要します。またそれ以外についても資料というのはお見せできると思います。見積りか入札か、どういう方式でやるかはわかりませんが、いずれにしても、結果については、お示しすることはできると思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○6番（福本栄一郎君） 先ほど質問を忘れたんですけれども、工事監理業務委託はもう入札をかけたということなんですけれども、金額を教えてくださいませんか。消費税込みで結構です。

（教育委員会事務局長「手元に資料がございませんので」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午前 9時35分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時36分）

---

○教育委員会事務局長（石田正志君） 申し訳ございませんでした。

監理業務委託につきましては税込みです。637万2000円です。

○議長（稲葉昭宏君） いいですか。

（福本議員「はい」と呼ぶ）

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○5番（藤井 要君） このあいだ聖和保育園をやった時には、地元の業者が入っていました。今回も地元の業者を使ってくれということで、言っているということなんですけれども、これは、元請けがどのくらいこちらに落とすかということはわからないわけなんですけれども、設計というか、そういう契約を結ぶ時点でいろいろ交渉もしているでしょうけれども、下請け率というのはどれくらいを見込んでいるのか。そういうことまでやってありますか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 下請けを使う使わないというのは、そこまで強制はできませんから、あくまでも入札の通知を出した・・・、そこに一応その時点で、町内業者を使ってくださいという一枚ぺらですけれども、紙で要請を出した上で入札を執行いたしました。

また、5000万円以上を超える工事につきましては、松崎町の工事執行規則で下請契約をした場合、町長に通知ということになっていますから、ちゃんとした契約を行えば、どの業者がやっているかというのはわかると思います。

○5番（藤井 要君） 最後に、また下請け率と出来上がった時点で開示をお願いしたいなと思います。

先ほど議員の中からもありましたけれども、追加工事の関係ということがありましたけれども、工事には、これは基本中の基本で設計を出していると思うんですよ。後からの追加というのは、特殊事情が出たりとかした時にやるものだと私は理解しております。

ですから、発注する時に、もう設計業者との間でもちゃんと基本的にこれは必要なものであると、いないもの・・・、最初から金額を上乗せすると余分なものまでつけられるということも私も承知しております。

ですから基本的な・・・、基本である設計しかやっていないのかなと思っていますけれども、もう一度その点、漏れはないのか、なかったのか、事務方のそういう点をちょっと伺いたいと思いますけれども。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 設計をするにつきましては、基本から実施設計に移るにつきまして詳細設計になるわけですが、当然詰めて相談して、あるいは現場の意見等を取り入れたもので設計をお願いしています。基本的には、大きな、予測しない大きなそういったものは発生しないだろうという前提のもと、私どもも入札をしたものでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○1番（伴 高志君） 事務局長のお話で、新幼稚園が3歳から5歳の対象で、それぞれが20名ずつのクラスというのを想定して設計を組んでいますということを伺ったんですけれども、現在の規模、これからの人口ビジョンというのを・・・、もちろん私もそれに積極的に関わっていきたいんですけれども、これだけの大規模な工事を行って、長期にわたってそういう見通しを・・・、明るい見通しをたてていくということが大切だと思いますので、そのあたりの答弁も含め、町長のお考えをもうちょっとお示しいただけたらと思います。お願いします。

○町長（齋藤文彦君） 松崎をいま活性化ということで町政でやっているわけですが、この幼稚園が本当に足らなくなるように皆さん方が子どもを産んで松崎町が元気になるようにしたいなと思っています。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 幼稚園の教室の広さというのは、以前にも言ったことがあるんですけれども、保育園と違って基準はございません。保育園の場合は3歳以上は1人1.98㎡の面積を確保しなさいというのがあるんですけれども、幼稚園はございません。

ただ、20人というのは、現在、今年度が45名入園してまして、その内一番多い学年、4歳児が18名ということでございます。

それに定数の関係は規則で謳われておりまして、幼稚園の場合は30人以下と規則上なっていますが、当然それを採用しますと、現実離れしていますから、だいたい年間40人位が生まれるという中で、マックスで、当然歳の波があるのは承知していますけれども、20人位の子どもが入るようなスペースでいいんじゃないかという考えでございます。

○2番（渡辺文彦君） 設備的なことでちょっと確認したいんですけども、今回聖和保育園が新しくできて、いろいろ中のことを聞いてみますと、一応設備として空調が入っているんですね、クーラーが。おそらく今度の幼稚園も入ると思うんですけども、面積が広い割に子どもがいないのにずっとかかっているという、そんな状況があって電気代のむだみたいなことが言われているんですね。ですので、設備的な面で節電できるようなことを考えた設計になっているのかどうか、その辺をちょっとお伺いしたい。

あと、聖和の場合は、やっぱり小さい子どもを預かっているということで、入浴設備があるんですけども、幼稚園の場合は、この設計ではないんですけども必要ないですか。その辺の確認をしたいんですけども。

空調なんかに対する電気の節約に対する設備が確認されているかどうか、その辺をちょっと確認したいんですけども。

○教育委員会事務局長（石田正志君） 空調は基本的には各教室、遊戯室、職員室は設置します。ただ、いないところでは原則入れないということになると思いますけれど、当然温度設定などもして調整します。さらに室内の熱ですか、温度が上がらないようにということで、ガラスも二層のガラス等を採用して室内が暑くならないように、断熱効果があるようなものを採用しています。

それと入浴施設ですか、これは3歳から5歳ということでございまして、幼稚園の場合は設置基準がありますけれど・・・、法律とか先ほど言った指針、入浴施設は特に求められておりませんのでございませんが、トイレ等で当然小さい子ですから、汚すことがあるわけです。そういった中で、洗うシャワー室、そういったものは用意してございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○1番（伴 高志君） ちょっと質問し忘れたんですけども、今ある施設は取壊しになるということでしょうか。確認をお願いします。今ある幼稚園、岩科・・・。

○教育委員会事務局長（石田正志君） それにつきましては、教育委員会が判断する案件ではないんですけども、町全体の公共施設の利活用の庁内委員会がございますから、その中での検討することだと思います。ただ、現状では壊すというような結論は出ていません。

○議長（稲葉昭宏君） 質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○1番（伴 高志君） 本件はまだ十分な検討がされていないという判断をするという立場で、反対の立場で討論いたします。

本年度の予算に私は賛成しているわけでありますけれども、この28年度予算の中でも非常に大きい規模の予算額でありますので、これは、もっと時間をかけて慎重に審議していく必要があると考えます。

○議長（稲葉昭宏君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○2番（渡辺文彦君） 私は、この案件に対して賛成の立場を表明いたします。私は個人としては、この今年度の予算に対しては反対をしたわけですが、議員の総意としてこの予算が認められたわけですから、議員の立場として、この予算を忠実に執行していただくためにも誠意をもって町民の望む幼稚園を造ってもらうことを期待して、この案に賛成したいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） これをもって討論を終了します。

これより議案第59号 平成28年度松崎町立幼稚園建設工事請負契約についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

---